

## 公益財団法人日産財団 第1回リカジョ賞の選定について〈講評〉

選考委員長 西本清一

子どもたちの科学的思考能力を高める理科教育の実践、ならびに教師の理科指導力を向上させる授業研究の実践に取り組む幼・小・中学校や研究会を支援している日産財団では、「理科教育助成」対象校に選ばれ、2年間の取組を通じて理科教育の質の向上につながる優れた研究成果をあげた助成校に「日産財団理科教育賞」を授与しています。

この「理科教育助成」とは別に、「新しい科学技術が未来社会を創造し、世界を変えていく時代の先頭に立ってリードするSTEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)に秀でた女性をたくさん育てたい」という日産財団志賀俊之理事長の熱い思いから、2018年度より新たに女子児童・生徒の理科への関心を顕著に高めたと評価される実践に取り組んだ個人または団体に「日産財団リカジョ賞」を授与することにしました。

理科教育助成選考委員会では、2017年6月1日から2018年3月31日までの公募期間に応募された14件の申請書による第一次書面選考を経て、第1回「日産財団リカジョ賞」候補として下記の4件を選定しました。さらに第二次書面選考において、同4件の実践内容を精査した結果、甲乙付け難い優れた取組であると判断された2件を『第1回日産財団リカジョ賞グランプリ』に認定しました。

### 【第1回日産財団リカジョ賞グランプリ(賞状と副賞20万円)2件】

**一般社団法人横浜すばいす 古川三千代氏：**小中学生を対象に、機材・テキスト・指導マニュアル・指導者をセットにした出前授業「課題解決型ロボットプログラミング教室」を実践し、リテラシーとしてのプログラミング技術の習得を促すとともに、ロボットの動作制御に関する応用展開を通じて、STEM人材育成のための総合学習型教育法を普及させた実績が高く評価された。同教育実践において、PC活用によるプログラミングが女子に適していることを検証する一方、リカジョ育成に向けた新しいSTEM教育の在り方を提示しており、今後の波及効果が大いに期待される。

**福島市立渡利中学校 菅野俊幸氏：**東日本大震災からの復興をテーマにした夏休みの課題研究において、2名の女子中学生がリカジョの片鱗を示す優れた研究を展開したことに端を発し、理科担当教師の指導および域内外の大学・研究機関との連携などを積極的に図りつつ、農作物の栽培を中心とした課題に取り組むレギュラー教育プログラムに発展させており、リカジョ育成に向けたSTEM教育の優れた実践になっている。夏休みの課題研究だけでなく、科学部での研究活動への自主参加を含め、女子生徒の意欲は高く、5年間で延べ40名の女子生徒が研究活動を展開しており、継続的なSTEM人材育成教育プログラムに成長させた実績が高く評価された。

### 【第1回日産財団リカジョ賞 準グランプリ(賞状と副賞10万円)2件】

**五十嵐美樹氏：**初等教育の段階で、学力差は認められないにも拘わらず、STEMに対する女子の意識や意欲は男子に比べてネガティブ傾向を示すことに着目し、科学コミュニケーションの手法を用いて女子の理系離れを改善しようとした取組を展開した点が評価された。女子を対象とした科学実験の実演や体験を盛り込みつつ、ソフトなアプローチでSTEMに対する女子の関心を喚起しようとしており、理系へ進学するリカジョを増やす導入面で一定の効果があり、今後さらに本格的なリカジョ育成のためのSTEM教育プログラムに発展することが期待される。

**日本科学未来館 つながりプロジェクト：**アジア・太平洋地域の中高生と日本の女子中高生の協働作業を通じて、科学データを根拠に「幸せって何だろう？」のシナリオを構築するワークショップと映像製作、さらに映像作品のコンテストで構成されたグローバルリーダー養成の取組を通じて、女子を対象としたSTEM人材育成を図った点が評価された。日本からの参加者を女子学生に限定したことにより、リカジョ育成につながる効果が得られており、今後リカジョ育成を目的とする本格的なSTEM教育プログラムに発展することが期待される。